

## (7) 竹根の漂白試験

1. 担当者 工業技師 松田 健一
2. 目的 竹根の漂白（竹材の漂白）については比較的、文献及資料等が少ないが1.2の方法は取扱い方、時間的な問題もあり、大量に之を実施する場合色々な問題が思考されるので特殊な設備を必要としなく簡単に行ない得る処理を試みるものである。

3. 概要 現在漂白剤に使用される薬剤としては幾多の薬剤が考えられるが竹製品関係或いは工業的利用価値のあるものは大略次の薬品類が考えられる。

1. クロールカルキ
2. 蓚酸
3. 苛性ソーダ
4. 過マンガン酸カリ+硫酸ソーダ
5. 過酸化水素
6. 亜塩素酸ナトリウム
7. 其の他

(実験1)

カルキ水溶液1%中竹根を約1時間浸漬水1000cc  
蓚酸50gの溶液にて30分間煮沸水洗

(実験2)

亜塩素酸ソーダ ( $\text{NaClO}_2$ ) 30g  
蓚酸 ( $\text{C}_2\text{H}_2\text{O}_4$ ) 5g  
10~20分 煮沸水洗い後晒

(実験3)

$\text{H}_2\text{O}_2$  (過酸化水素5%) +  $\text{NH}_4\text{OH}$  (アンモニア水14%)

4. 成果 一番好結果をあげ得るのは、 $\text{H}_2\text{O}_2$  に依る、漂白法である $\text{H}_2\text{O}_2$  の使用は比較的素地を傷めず取扱いも容易であるが漂白用の容器に絶対に金属のものを使用しない事と濃度が比較的高い為経済的に相当な問題が残される。只薬品による漂白全般を通じて、云える事は竹材そのものあく迄も漂白であり、油抜き後乾燥した当時の落付いた淡黄色の色調は得にくい事である。之については漂白後の天日晒露とか「パーカ」に依る製品の仕上等色々と考えられるがこの研究においては薬品使用による竹根の漂白迄を限度として実験を終つた。今后竹幹の内外部の漂白について研究を続ける予定である。

## (8) 「やまぐるま」材の染色研究

1. 担当者 工業技師 山田 式典
2. 目的 本県屋久島に比較的多量に産する「やまぐるま」材の模板に対して、その優美な文理を失うことなく、淡い色彩を出し、家具化粧用材として使用する材